

教育目標(めざす児童生徒像)

人を愛し自然を大切にすること豊かな人間を育てる
 協力し合う生徒
 自立する生徒
 創造していく生徒
 支え合う生徒

今年度の指導の重点

- ・確かな学力を育てる
- ・豊かな心を育てる
- ・主体的に考え行動できる生徒を育てる
- ・地域や保護者と連携した教育活動を推進する

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国
 国語は、A、B共に県平均を上回っている。
 国語では、読む能力については、県平均・全国平均と同等か上回っているが、話す・聞く能力、書く能力、言語についての知識・理解・技能に関する問題が県平均を下回っている。
 数学は、A、B共に県平均を下回っている。
 数学では、数と式、関数の領域で県平均を下回っている。

国語Aで、「次々に簡略化していった」理由を説明したものとして適切なものを選択する。本校90.7%(県83.4%)
 国語Aで、漢字を読む(アユの稚魚を放流する)。本校90.7%(県77.7%)
 数学Aで、一元一次方程式 $(X - 1) \div 3 = 2$ を解く。本校40.7%(県57.2%)
 数学Aで、三角形の外角について、正しい記述を選ぶ。本校73.6%(県69.7%)

県
 数学は、県平均を上回っているが、国語と社会は下回っている。理科は同程度である。
 各教科とも、基礎より活用の方に課題が見られる。
 国語は、漢字的読みはできているが、長い文章などの読み取りができていない。
 社会は、基礎的な問題の理解が低い。特に歴史・公民分野が低い。
 数学は、数量や図形についての知識・理解は高いが、数学的な考え方が低い。
 理科は、植物に関する問題は高いが、天気に関する問題は低い。

【学習状況調査の結果】

学校が楽しいと感じている生徒が多い。
 朝食を毎日食べている生徒は県・全国平均を上回っている。
 地域の行事に参加したり、地域の人に挨拶をしたりなど、地域にとけ込んでいる生徒が多い。
 国語が好きな生徒が多い。
 数学が好きで、将来役に立つと思っている生徒は多い。
 図書館の利用や読書時間が長い生徒が多い。
 あいさつについては、昨年より1ポイント下がっているが、県平均を上回っている。
 授業の中でグループ学習をする機会が多いと感じている。

自己肯定感が低い生徒が多い。
 夢や目標を持っている生徒が少ない。
 人が困っているとき、助けない生徒の割合が多い。
 3時間以上テレビを見ている生徒が多い。
 1日あたり4時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている生徒が多い。
 家庭学習の時間が30分未満の生徒が多い。特に復習の時間が少ない。
 授業の中で、自分の考えを持ったり、学級全体で話し合いをしたりする機会が少ないと感じている。

成果と課題

朝読書の取り組みにより、図書館の利用や読書時間が多い。
 朝の校門指導などにより、あいさつをする生徒は県平均より多い。
 授業改善を進めてきたため、「教科の授業が好き」と答える生徒が多い。
 「家庭学習の手引き」などにより、計画的に勉強している生徒が県平均より多い。
 粘り強く問題を解くように工夫して指導を続けているが、国語では「漢字の読み書き」や「文章を書く力」を問う問題で無回答率が高く、十分な成果が上がっていない。
 国語の漢字的読み書きや数学の方程式の移項などの基礎基本は身につけているが、活用問題に限らず基礎問題のなかでも複雑な設問については、問題の意図を読み取れていない生徒が多い。
 記述式の問題を苦手と感じる生徒が多い。

課題に対応した改善方法

- ミニ学習の充実...本校の課題が解決できるように内容を工夫し、既習事項の反復練習に力点を置く。
 ミニ学習コンテスト(漢字・計算)を実施する。
- 放課後補充学習の実施(到達度テスト等も活用)
- 基礎的基本的な知識・技能の定着...定期的に小テストを実施し、生徒のつまづきをきめ細かく把握し、個に応じた支援を行う。
- 授業改善の推進
 - ・授業研究会を中心に据えた校内研修の実施などで「言語活動」を取り入れた授業改善を図る。
 - ・岡山型学習スタンダード」の積極的活用を図る。
- 家庭学習の取り組み
 - ・家庭学習の手引きの改良...家庭学習(復習)の方法・内容を自分自身で振り返る機会を増やしたり、家庭に呼びかけたりする。
 - ・自主学習への取り組み(宿題の内容の見直し)...望ましい自主学習内容等を指導したり、好事例を紹介するなどして、取り組みを活性化させる。
- メディアと上手に接する態度の育成
 - ・帰宅後の時間の過ごし方について、生徒に指導したり保護者に啓発したりする。
 - ・小中連携の中で「ノーメディア・デー」の取り組みを進める。
- 本に親しむ習慣の育成
 - ・朝読書の推進、図書館利用の推進
 - ・自己肯定感を高める取り組みの推進
 - ・授業中や業間も生徒の中に入り、きめ細かい観察・支援を通して、自分の良さに気づかせ、自己肯定感を高める。
 - ・行事の中で様々な体験を通して、成就感や達成感を感じさせ、自己肯定感を高める。

取組の検証方法及び検証時期

生徒へのアンケートの実施(10月)
 中2に学力定着状況たしかめテストの実施(11月)
 授業参観シートの活用(随時)及び校内研究授業の研究協議で検討(学期ごと)
 行事の反省(随時)
 生徒による授業の振り返りカードの活用(随時)

達成目標(数値目標)

数学の平均正答率で県平均を上回る。
 家庭学習が1時間以上の生徒の割合を60%以上にする。
 家で授業の復習を毎日する生徒の割合を50%以上にする。
 「自分によいところがある」と回答する生徒の割合を50%以上にする。